

我が事・丸ごとの地域づくりをすすめるための

福祉教育応援ブック



第二地区 高齢者・小学生ふれあいの集い

ふれあいやまがた 福祉文化のまちづくり

福祉文化とは・・・
 助けあい、支えあう福祉の心が
 人々の生活に溶け込み
 根つき、それが文化として
 受け継がれていって欲しいという
 願いが込められた言葉です。

学校と地域のつなぎ役として～福祉教育における社協の機能・強み～

社協のいちばんの“ウリ”は、地域のさまざまな人材や社会資源とのつながりをもっていること。
 社協は地域福祉をすすめていく組織です。そのために福祉教育を大切に、学校を含めた地域のさまざまな場面ですすめられる福祉教育を推進・支援しています。学校ですすめられる福祉教育に対しては、プログラムの企画段階からの相談、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネートを担っており、地域のさまざまな資源を駆使したプログラムを提案することができます。

子どもたちの「学びたい、活動したい」という気持ちを、具体的な活動につなげます。
 学校の授業や行事の範囲内ではおさまらない、子どもたちの「もっと学びたい・もっと活動したい」という気持ちを受け止める地域の受け皿を用意することも強みです。社協には、そのような子どもたちの気持ちを具体的な活動につなげていく応援ができます。子どもたちの豊かな心をはぐくむためには、学校・家庭・地域が連携しつつ、地域全体で取り組むことが不可欠です。そこで社協は、地域のつなぎ役を担っていきます。

山形市社会福祉協議会 ボランティアセンター
 TEL:023-645-9233 FAX:023-645-9236
 〒990-0832 山形市城西町2丁目2番22号
<http://www.yamagatashishakyo.or.jp>

平成30年3月発行



Step1

今の現状を理解する

誰もが社会参加できる地域づくりのための福祉教育

福祉とは「幸せ」という意味です。「幸せ」の感じ方は一人ひとり異なります。ちがう存在を知る事が福祉教育の第一歩といえます。

福祉を考える上で、大切にしなければならないのが「人権」です。福祉教育では、様々な体験を通して、学習者である小・中学生や高校生が人権を考える機会を作っていくことになります。キーワードは助け合い(共助)です。

これは学校内に留まらず、地域に学習素材を求めることで実感を得ることができます。

地域の中にある学びの場

福祉教育は、身の回りの方々や地域との関わりを通して、そこにどのような福祉課題(地域の困りごと)があるかを学び、その課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことを目的としています。

今の子どもたちは、地域の大人と関わる機会そのものが少なくなっています。身近な地域に暮らす、障がいのある人や高齢者を含めたさまざまな人々との関わり、学ぶことを通して、子どもたちは**コミュニケーションの力**を高め、多様な生き方にふれ、**命の大切さ**や**思いやりの心**、相手を理解しようとする豊かな心をしっかりと育みます。

福祉教育を通して育まれる力



また、出会いや関わりを通して、**自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力**や**自分の考えを表現する力**、考えを共有し**実行につなげていく力**等の「ともに生きる力」をつけていきます。さらに子どもたちが地域の中で交流や活動をすることで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、**自己肯定感**や**自己有用感**を積み重ねていくことができます。

子どもが変わる！大人が変わる！地域が変わる！

こうしたことは子どもたち一人ひとりの「**学び**」や「**育ち**」につながるだけでなく、家族や友達、地域の中においても**お互いの違いを認め合い排除しない仲間づくり**へとつながっていきます。

子どもたちが**学びを通して変わること**で、**大人や地域もともに学び、変わることができる**と考えています。



学校教育の中で福祉教育プログラムの活用を



社協が**1970年代からすすめている福祉教育の取り組み**は、まさしくこの「**生きる力**」に通ずるものであり、そのための**ノウハウと人や社会資源**のコーディネート力を持っています。**子どもたちの学びを地域とともに作っていくために**、ぜひ**社協**をご活用ください。

Step2

指導するためのプランを立てる

福祉教育のプログラムを企画しよう

高齢・障がい体験にとどまることなく、環境問題や多文化共生、人権尊重など、地域の福祉課題や生活課題を身近な暮らしと結びつけて考え、課題解決に実践的に取り組めるよう成長していくための福祉教育のプログラムを考えてみましょう。



プログラムづくりの手順とポイント (作成例)

準備

- ①ねらいや目的をはっきりさせましょう
- ②講師やボランティア等の都合も考えてプログラムしましょう
- ③企画には、地域の人、保護者、団体組織にも参加してもらいましょう

準備学習

- ①興味・関心を持つためのきっかけづくりの学習を企画しましょう
- ②次の体験学習の内容をイメージして学習しましょう



体験学習

- ①体験の目的は「ひとごとではなく自分のこととして考える」という視点を持てるようにすることです
- ②対象学年によって体験の幅と時間配分に配慮しましょう

振り返り・発表

- ①学習の中で感じ、学んだことを、しっかりと表現・提言するようにしましょう
- ②プログラムの評価も行いましょう



発展・行動

- ①学びから次のステップへつなげましょう「自分たちのできることはなんだろう」「やってみよう」
- ②地域の人や組織団体とのつながりを活かし、繰り返しやってみよう

具体的な手順の一例

企画会議(学校内部・ボランティアセンターとの打ち合わせ)

具体的なスケジュールやタイムテーブルの作成

講師やボランティアの手配、依頼

学年ごとの理解能力に合わせた学習の内容を考える

地域の人、保護者、他団体の協力をしてもらう

次の学習のための宿題や情報収集なども企画する

来ていただくゲストティーチャーやボランティアへのねぎらいを忘れない

体験中の生徒の反応や感想・意見を十分に様子を見る

学習の目的や視点が明確になっているか留意する

学年ごとの理解能力に合わせた整理・まとめの時間を取る

ゲストティーチャーへのお礼の手紙や感想のまとめなどを準備する

学校として企画や内容の評価や反省なども行う

自分たちでできる福祉活動を企画する

地域の人や組織団体との打合せも実施してみる

子ども達の新しい発想や取り組みを大切にする

Step3

講座・体験から学ぶ

地域の中で「ともに生きる力」を育む福祉教育

福祉教育における体験学習は、「見る」「聞く」「ふれる」など、五感を存分に使って学ぶことが大切です。本物と出会い、その多様性にふれる体験は、子どもたちに大きな驚きと実感をもたらし、その感動が、子どもたちの学びをより確実なものとし、豊かな成長を支える礎になります。多くの人たちとの価値ある関わりを通して、子どもたちは自分を含めて周りの一人一人の存在の大切さと、よりよく生きようとする人間共通の願いに気付いていきます。

障がい者・高齢者の理解

障がい者の理解



障がいとは何か、高齢になるとどうなるのか、「違い」の理解、障がいの有無に関係なく、幸せに生活する社会について学びます。



地域を学ぶ

地域のゲストティーチャーによる授業



地域の福祉活動に取り組んでいる方を講師として招き、地域のささえあい活動や役割、たずさわる人の思いを学びます。

まちを知るワークショップ授業

福祉の「まち探検」を行い、公共施設だけではなく、町内会や民生委員児童委員、消防団といった、自分たちを取り巻く地域の活動を知り、地域に関心をもつきっかけをつくります。



車いす体験



高齢者疑似体験



イヤーマフ体験



認知症サポーター養成講座



認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域などで認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けすることを学びます。

Step4

学びから次の行動へ

学びから自分たちのできる福祉活動につなげよう!!

「自分たちに何かできないだろうか」「自分たちができることは何だろうか」と課題を解決していこうと行動に移すことも重要です。自分たちの身近な地域の中の課題をみつけてそれを解決し、学びを確かなものにしていく上で、特に、人と関わり合う体験活動はとても大切です。各学校の児童生徒の実態や地域社会等の実情に応じて、実際に地域の中での福祉活動が展開されることが望めます。

小学校での取り組み

山形市立第四小学校 地域の祭りでの交流の企画



毎年開催している「いちよう秋祭り」では高学年の児童が、地域の社会福祉協議会のブースに参加し、地域の方へ茶菓子を振る舞ったり、掃除の手伝いをしたりしました。多くの児童が積極的に参加することが出来ました。

山形市立出羽小学校 高齢者の集い



地区の「高齢者の集い」に参加し、紅花太鼓や歌の発表などをしました。おじいちゃんもおばあちゃんも、交流した6年生もみんなが笑顔いっぱい時間を過ごしました。

中学校での取り組み

山形市立第一中学校 除雪ボランティア



学校と地域の福祉関係者(民生委員児童委員など)と協力しながら、手助けが必要な人や場所に、除雪ボランティアを実施しています。

山形市立金井中学校 地域の駅の美化活動



公共の場を美しく利用できるように、春と秋の花苗の植え付けのほか、水やり、除草等の管理を地域の方と一緒にを行っています。

高校での取り組み

山形市立山形商業高等学校 バス停の除雪活動



「地域に開かれた学校」「地元を受け入れられる学校」を目標に、町内会の方との懇談会やバス停等の除雪作業、特別養護老人ホームへの訪問など行っています。

山形県立山形中央高等学校 ボランティア大作戦



総勢500名の生徒が自分たちが得意なことで地域の方から喜ばれることを行おうと、学校を開放し地域の方と一緒に地域福祉活動に取り組みました。



町内の方との交流活動

【FAX 023-645-9236 ボランティアセンター行き】

物品借用申請書						
貸出一覧	備品名	数	借用数	備品名	数	借用数
	車いす	10台		ひざサポーター	15組	
	アイマスク	110枚		ひじサポーター	15組	
	白杖	15本		子ども用ひざサポーター	15組	
	特殊ゴーグル <small>(白濁・視野狭窄・スモーク黄白濁・加齢黄斑変性・全盲)</small>	10個		子ども用ひじサポーター	15組	
	一般ゴーグル <small>(白濁・視野狭窄)</small>	20個		重鎮バンド(大)	15組	
	イヤーマフ	25個		重鎮バンド(小)	25組	
借用責任者	住所					
	氏名					
	電話					
使用目的						
使用場所						
借用年月日		年 月 日	午前・午後	時 分		
返却年月日		年 月 日	午前・午後	時 分		
上記の通り借用いたしたく申請いたします。						
年 月 日						
申込者 住所 _____						
氏名 _____						

返却日	受領者

※借用については、最大2週間とします。

【FAX 023-645-9236 ボランティアセンター行き】

福祉学習 相談依頼書

※黒枠内の項目を全て記入してください。

依頼日	年 月 日				
学校名	小学校	担当			
	中学校				
	高等学校				
住所					
電話		FAX			
対象者	全校 / 学年 / クラス	年生(クラス) 名			
	福祉委員会 / 福祉クラブ	【内訳】			
	その他()	年生(クラス)	名		
		年生(クラス)	名		
		年生(クラス)	名		
ねらい					
実施内容					
今までの取組					
開催日程(候補日)	第1希望	年 月 日()	: ~ :	(校時~ 校時)	
	第2希望	年 月 日()	: ~ :	(校時~ 校時)	
	第3希望	年 月 日()	: ~ :	(校時~ 校時)	
実施場所	教室 ・ 体育館 ・ 視聴覚室 ・ グラウンド ・ その他()				
予算等	あり(円程度) ・ なし				
	【内訳】 謝金:講師 円・Vo: 円、 資材運搬代他: 円 材料費: 円				

貸出備品一覧

備品	数	備品	数
車いす	10台	ひざサポーター	15組
アイマスク	110枚	ひじサポーター	15組
白杖	15本	子ども用ひざサポーター	15組
特殊ゴーグル	10個	子ども用ひじサポーター	15組
一般ゴーグル	20個	重鎮バンド(大)	15組
イヤーマフ	25個	重鎮バンド(小)	25組